

## 休職者に心強い 女性支援のカリスマ

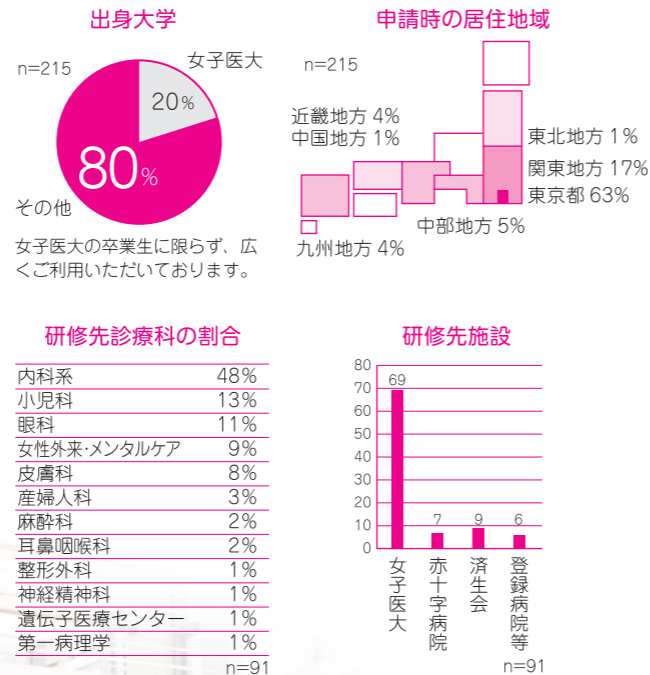
世界的にも珍しい女子大学としての医科大学である、東京女子医科大学では女性医師の勤務継続に対する様々な支援を行っています。男女共同参画推進局を設立し「女性医師・研究者支援センター」「女性医師再教育センター」「看護職キャリア開発支援センター」の3つのセンターから成り、同大学内、大学外への働きかけをしています。2006年度から具体的な事業をスタートさせ、今年で10年。制度を利用してステップアップした医師、復職を実現した医師が着実に増えているようです。その中でも院外の医師にも利用できる「女性医師再教育センター」では、実地研修の「女性医師再教育-復職プロジェクト」と「教育・学習支援プログラム(e-ラーニング)」を2本柱として活動しています。

技術と職場の感覚を取り戻す再教育

## 復職プロジェクト

申請者の状況、ご要望を個別にヒヤリングして、対応を検討いたします。研修を行う際には、研修先との交渉を行い、オーダーマイドの研修カリキュラムを申請者と一緒に計画します。

申請者状況 (2015年12月末現在)



復職プロジェクトの相談はまず相談者へのヒアリングや面談をして、相談者の要望や現在の状況を把握し、オーダーマイドの研修プランを組みます。週何日・何時間研修できるのかそれぞれ環境が違いますので、それに合わせたスケジュールや研修先も相談にのってもらえます。同センターで相談役を務める和田さんは「相談に来られる先生達はみなさんとても真面目で、私は医者なのに何もしていない。せっかく医師免許を取得したのに社会に貢献できていない。と何もしていない自分に悩んでおられる方がとても多いです。」と仰っています。高度な教育を受け狭き門を潜り抜けて医師になった彼女達は、医師という特に社会貢献度の高い職種が故に、その資格を活用で

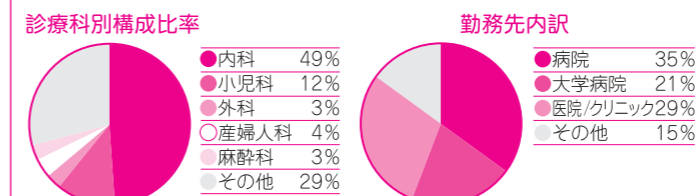
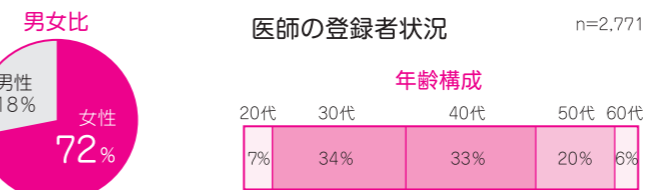
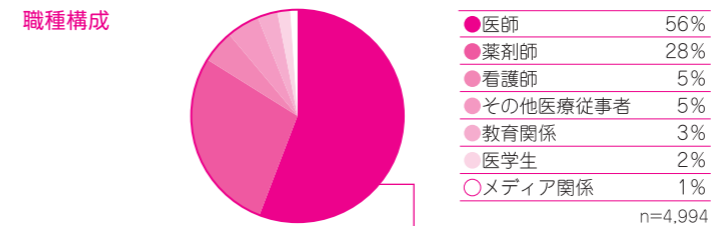
きていないことへの罪悪感や喪失感に苛まれることが多いようです。相談者の出身大学も8割が女子医大以外の卒業生で、診療科目や居住地域も様々です。同センターでは、ただ研修を行うだけでなく、それぞれの医師の状況や環境を踏まえ、その人に適したアドバイスもしてくれます。復職に踏み出せずにいる人がいれば、是非一度相談してみたいはいかがでしょうか。

教育・学習支援プログラム(e-ラーニング)は、女性医師だけに限らず医師・看護師・薬剤師などの医療従事者、医療を志す学生でも利用が可能です。休職中医師のみならず、現役の医療従事者にも専門外の学習として誰でも無料で利用できます。これまで様々な制約のために研修へ参加できなかった女性医師が、自宅で最新の医療情報入手でき、研修プログラムに参加できる時期までの期間を有効活用できるようになっています。

## 知識のアップデート教育と学習支援 e-ラーニング

1講義は約20分。「キャリア」「臨床基本」「臨床実践」などのカテゴリに別れており、約100コンテンツを公開しております。登録、視聴はすべて無料で、医療従事者であれば、性別、年齢、お住まいの地域などを問わず、どなたでもご利用いただけます。

登録者状況 (2015年12月末現在)



# 女性医師再教育センター

2つのプログラムで医師の復職を支援——。



東京女子医科大学  
女性医師再教育センター事務局

相談役  
和田 美周子

2つのプログラムで女性医師の復職を支援していますが、これはあくまでもセーフティネットです。こういうサポートがあるということを知ってもらおうことで、現役女性医師の離職防止になってくれればと、和田さんは話します。



榎垣先生がセンター長を務める「女性医師再教育支援センター」にはどのような相談者が来られるのですか。

年代としては40代～50代の子育てが落ち着いて、もう一度医師として働きたい方が大半です。退職した医師の経験や環境は様々なため、研修プログラムも1つでは対応できません。

相談者一人ひとりの悩みや不安を聞きだし到達目標を決め、その目標達成のための研修先を選定します。実際に研修に至るまでに私たちに相談することで、自ら方向性を見つけ復職される医師もいらっしゃいます。

当センターが紹介する研修はたった3か月と短く、退職期間の遅れを取り戻したり、新しい医療技術を習得するためには十分ではありませんが、最初の一步を踏み出すお手伝い、自信を取り戻すための後押しをすることが役目です。退職期間が長くなればなるほど自分がもう一度医師として働けるのか、何から始めればいいのか分からず悩んでいる方がほとんどです。世の中には復職したいと願う女性医師が相談できる場所や組織が少なく、それ自体が大きな問題だと感じています。

女性のライフコースには多くのライフイベント（結婚・出産・育児・親の介護）があり、男性のように長期的に仕事のビジョンを考えにくいですが、どのような考え方やキャリア形成をするとよいのでしょうか。

女性医師のキャリアを考える時、個人の環境や価値観に大きく左右されますので何か1つ総論というのを提示することは困難です。どの道を選択しても悩みや困難もありますし、充実感もあります。視点を変えれば男性の比較的一貫した価値観のライフコースに比べると、非常に価値観が多様化しており、選んだコースで直面する困難をどうやって乗り越えるかの方法も様々です。

私個人の考え方としてはライフイベントにより、仕事の活動量を減らしてペースダウンすることを前提とした考えには抵抗があります。家庭と仕事を両立させるという考え方には反対です。そもそも全ての働く人にプライベートがあり、子育てや介護もあるので、両立する・しないという問題ではなく、表裏一体どちらも存在するものです。ワークライフバランスという言葉がありますが、最近ではワークライフシナジーという言葉に変わりつつあります。



東京女子医科大学  
女性医師再教育センター長

教授 榎垣 祐子

女性医師にとってのキャリアデザイン形成は、目標をフレキシブルに変えていける対応力が大切だと榎垣教授は語ります。



総合外来センター外観

仕事がプライベートにプラスに作用することもあるれば、プライベートが仕事に作用することもあります。両方が人生の一部であるという大きな視野で捉えれば、双方がシナジー（相乗効果）であるという考え方が大切だと思っています。

ですから、女性の20代～30代は子育てもあって大変だから仕事の活動量を減らして、子育てが落ち着いたら復帰できるルートを作るという考え方に実は反対です。そのルートを選択することでキャリア形成上はどうしても不利になります。キャリアをキープしつつ進むことが理想です。その為には性別役割分担という日本の昔からの概念・文化を打破していかないと本当にハッピーな世の中にはならないと思います。

近年のアンケート調査で『管理職になりたくない』という女性新入社員が7割近くいるというような報告※がありましたが、若い女性医師にもそういったキャリア志向の低下や医師としてのモチベーションの低下は見受けられるのでしょうか。

※公益財団法人日本生産性本部 2014年度新入社員秋の意識調査より

私が学生時代に教わった女性教授たちは独身で、男性並みにというか、男性として仕事をしていて『男の3倍働け』と言われ、それを受け入れてきた人たちなんです。そして、その次の世代というのが今の60代くらいの人達で、その人達は仕事も家庭も両立させたいと知恵を絞り、家族や地域などの助けも借りて乗り越えてきた人たちです。その世代が今の若い世代を指導したり支援する側となっています。今は3代目の時代となり、完璧ではなくとも働くための支援が整備されている環境にいて、初めから支援を受けることが普通という世代なので温度差は感じますし、彼女たちのモチベーションに影響しないかなという危惧はありますね。

ですからメンターという存在が重要で、自分のモデルとなる医師がいることが非常に大切です。

私の研修医時代と比べれば仕事に対する考え方などは随分変わったなと感じます。管理職になって負担を負うよりも、ある程度技術をつければ大学を離れたいという人も増えています。ただ興味のある分野には非常に力を入れる人が多い傾向にあるので、指導者はその人が興味を持って取り組める提案をしていくことが必要です。

榎垣先生にとってのキャリア、キャリアデザインとはなんだと考えられますか。

当大学は女子医大ですので「然るべき女性医師」を育成することだと考えます。では然るべき医師とは何かと申しますと、責任を持って社会に貢献できる医師だと思います。勤務医でも研究者でも構いませんが、やはり高度な教育を受けて医師免許を持っているのだから、自分の暮らしのためだけというよりは、社会に貢献するという視野を持って欲しいですね。

キャリアデザインというのはその中で目標をもつことですが、女性医師はその目標をフレキシブルに変えていける力があるかどうかです。1つの目標だけを突き進めるか分かりませんので、その都度柔軟に対応してその中で自分のやりたいことを貫いていけることが大切だと思います。

比較的短いスパンで目標を立て、目の前の仕事を丁寧に誠実に対応することで様々な経験が積めて、それがスキルとなりキャリアとなることも多いものです。私や周りの女性医師たちはそういう人が多いですよ。

最後に男性医師や病院関係者へのメッセージもお願いします。

恐らく女性医師が働きやすいように時短勤務を取り入れたり、院内保育所を作りましょうというような考え方が一般的だと思いますが、そういう制度を導入するだけのレベルは超えて欲しいですね。そのような安易なルートを太くすることではなくて、男性も女性もどうやったら一緒に働いていけるのか、教育していくのかという視点を持って考えて欲しいです。支援する、支援されるという関係よりも、仲間として尊重して欲しいです。その為にも女性医師は尊重されるだけの責任を果たすべきで、そこに男女共同参画社会が実現すると思います。